

## 確かな学力を身につけ、主体的に取り組む子をめざして

～ 課題解決的な学習を通して ～

輪島市立門前東小学校

### 1 事例の概要

本校では、国語科・算数科に焦点を絞り課題解決的な学習を中心に研究実践に取り組んだ。

特に、基本的な4段階の学習過程を設定し、機能させる課題解決的な学習を取り入れ、指導と評価・支援の一体化を図り、学力向上をめざした研究を進めてきた。その結果、児童が学習に見通しを持って意欲的に取り組み、自ら学び・考え・行動する姿が見られるようになってきた。

一方で、基礎学力調査や標準学力検査の結果を分析してみると、言語事項に関することや計算力は、良い傾向を示しているが、文章を確かに読み取る力や数学的な考え方などが十分に育っていないという課題も見えてきた。

そこで、授業では見通しを持って学習にあたり、「考える場」や「深める場」での言語活動や算数的活動の工夫により、確かな読みや数学的な考え方につながる指導を心がけてきた。

また、今年度は3校が統合して新しい学校になったこともあり、学級経営や家庭との連携もこれまで以上に気を配って学習を支える心の安定や基本的生活習慣の充実に努めてきた。

#### A-1 研究構想図

### 2 実践内容

#### (1) 確かな学力に向けての取り組み

本校では、確かな学力を「読み・書き・計算」をしっかりと身につけた上での、「話す力・聞く力・思考力・判断力・表現力」と考えた。そこで、「読み・書き・計算」の力をつけるために、学校全体で取り組んできた。

##### ① 学校全体での取り組み

- ・朝の読書タイム    ・計算タイム    ・全校テスト（年8回）    ・児童集会での学年発表
- ・算数コーナーでの算数的な体験活動

##### ② 家庭や地域との連携

- ・音読等共通な家庭学習    ・生活調査（年6回）    ・保護者への説明会    ・学校公開
- ・図書ボランティアによる読み聞かせ    ・学校評価アンケート

#### (2) 4つの基本的学習過程

4つの基本的な学習過程である「つかむ→考える→深める→まとめる」が機能している学習を繰り返し経験することにより、学習の仕方を身につけみんなで考えることの楽しさや、友達のよさに気づいてほしいと考えて取り組んでいる。

また、段階ごとに「子どもにつけたい力」と「教師の高めたい力」を明確にして、取り組みを進めてきた。

#### (3) 指導と評価・支援の一体化

特に、児童の実態を把握し、実態に応じた単元の計画を立てること・個に応じた手だてを準備すること・「ねらい～課題～まとめ」の一体化（整合性）を図ることを中心に行っている。

#### (4) 言語活動・算数的活動の工夫

体で学習したり、表現したりすることが重要と考え、いろいろな体験活動を取り入れて学習に臨んでいる。また、授業以外での活動も大切にしている。

#### B-1 4つの基本学習過程

#### B-2 授業を組み立てるにあたって

### 3 指導の実際 3年国語科 単元 大事なことをたしかめよう「すがたをかえる大豆」

#### (1) 指導のねらい

既習の「ありの行列」の学習を生かし、深める段階ではキーワードや中心文に目を向け、課題解決にむけて読み深める。

#### (2) 4段階の指導過程を明確にする。

- ① つかむ・・・課題「大豆をおいしく食べる工夫を見つけよう」をつかむ。
- ② 考える・・・キーワード（「くふう」）に着目して、5つのおいしく食べる工夫を見つける。  
ワークシートに書く。
- ③ 深める・・・読み取ったことを話し合う。  
書き出しの言葉に注目し、そのことから5つの工夫があることを理解する。  
（「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」「これらのほかに」）
- ④ まとめる・・・本時の振り返りをする。  
課題に対する自分の考えを文章でまとめる。

#### (3) 指導と評価・支援の一体化を図る。

考える段階で、「大豆をおいしく食べる工夫を読み取っている」という評価規準で見取りをする。ワークシートの記入状況の観察をし、十分に読み取りが出来ていない児童には、本文中の「くふう」という語句に注目するように助言する。逆に、工夫を見つけた児童には、どのようにして工夫を見つけたのか考えるように指示する。

#### (4) 学習内容を確認し、がんばりを意識するまとめを工夫する。

大豆から作られた食品の絵カードを分類することで、5つの工夫について確かめをする。

### C-1 指導案

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・「つかむ」段階で課題を工夫したり、見通しを持たせたりすることで、自分の考えを持てる子が増えてきた。
- ・ねらいにそったまとめと課題を意識することによって、指導と評価・支援の一体化が図りやすくなった。
- ・評価規準－評価場面－評価方法が具体化されつつあり、個に応じた支援の仕方が考えやすくなった。（ヒントカード・ヒントコーナー）
- ・国語の基礎学力調査の結果で、「主語・述語」についての定着が弱かったので、全校テストにいろいろなパターンの「主語・述語」の問題を取り入れた結果、今年度は県の通過率を4年生、6年生とも上回ることができた。
- ・学校全体で取り組んでいる全校テストや計算タイムにより成果がみられ、四則計算は概ね良好である。基礎学力調査の結果にも成果として表れていた。
- ・数量や図形についての感覚を豊かにするために、校内に「数量揭示」や「算数コーナー」を設けた。基礎学力調査の結果では、図形の面積を求める問題で、県の通過率を上回った。

### (2) 課題

- ・「深める」段階で、児童同士の学び合いの姿が見られるよう、ゆさぶりのある発問や高め合う発問を吟味する必要がある。
- ・児童の話し合いの力をつけていかないと「深める」段階で十分に深まらない。
- ・児童のふりかえりをどう生かしていくか、またそれを次の授業にどうつなげていくかについて、考える必要がある。
- ・国語科で確かな読みにつなげるために、各学年継続して、文末表現に気をつけて読むことや、接続語に注意して読むことを指導していく必要がある。